

令和4年度 子ども文教常任委員会 行政視察報告書

1 調査期間

令和4年10月26日（水）～10月28日（金）

2 視察都市及び視察事項

| 期 日 | 視察都市 | 視察事項 |
|-----------|--------|------------------------------|
| 10月26日（水） | 兵庫県尼崎市 | コミュニティ・スクールの取組について |
| 10月27日（木） | 大阪府箕面市 | 小中学校の体育館の空調設置について |
| 10月28日（金） | 滋賀県守山市 | 図書館改築による地域の人づくり、まちづくりの促進について |

3 視察者

| | |
|--------------|---------------|
| 平 川 和 美（委員長） | 松 長 由美絵（副委員長） |
| 味 村 耕太郎 | 西 智 |
| 永 井 譲 | 杉 原 栄 子 |
| 東 木 久 代 | 柳 田 秀 憲 |
| 竹 村 雅 夫 | |

4 視察の概要

| | |
|--------|---|
| 日 時 | 令和4年10月26日 |
| 場 所 | 兵庫県尼崎市 尼崎市役所 |
| 目 的 | コミュニティ・スクールの取組について |
| 尼崎市の概要 | 人口 455,551 人 阪神電車、JR、阪急電車が乗り入れ、大阪や神戸、京都や奈良へも乗り換えなしでアクセス可能。関西3空港へも1時間以内で移動できる。 山がなく、坂道も少ないため、徒歩や自転車での移動が容易。 南部に工業地域、中央部に商業地域、北部に住宅地が広がる。 平成28年、市制施行100周年。近年は人口増加にも転じている。 阪神工業地帯の中間地。震災後人口減少。55万→45万 |


| | |
|-----------|--|
| <p>内容</p> | <p>尼崎市 コミュニティ・スクールの 取り組み状況</p> <p>コミュニティ・スクールの導入状況 令和2年度5校 令和3年度3校 コンセプト WINWIN より HAPPYHAPPY</p> <p>学校運営協議会が校長判断へのアドバイザー的な存在となっている 地域学校共同活動推進員がコーディネーターの役割を担いその存在が大きい（国庫補助メニューにあり、それを活用）。</p> <p>子どもたちが大きなことをするにあたり、地域の人たちに支えられ実現する豊かな経験、地域に根差した経験を可能としている。</p> <p>今後について 課題の共有をしながら、設置校を増やしていく。 小学校から始まった。中学校への立ち上げが課題（クラブ活動の地域移行などもある）。高校は来年1校を予定している。キャリア教育などもプログラムとして期待される。 地域振興センター 学校運営協議会のオブザーバーに学生が関わっていくことも考えている。 学校を核にした地域づくり。地域の拠点に。 応援からコミュニティづくりを進め、見守られ育った子供たちが、地域活動に理解ある大人になっていくことを期待する。</p> <p>コミュニティの薄い地域での課題は？ 地域コミュニティの薄い地域であっても、子どもは学校に通っている。昔子供がお世話になった。など、声掛けを丁寧に行うことが重要と考えている。 各校の活動について、共有・広報を行っていくことが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会に活動費が支払われる。（1校10万円） ・子供たちの参画については・・・委員にはなれないが、話し合いの場に出てくることはあり得る。 ・先生への負担については・・・運営委員就任時に、説明する。 <p>理解してもらったうえで就任していただく。学校には評議員制度がある、</p> |
|-----------|--|




| | |
|--|--|
| | <p>健全育成事業の実績、中学生の社会体験のための会議体もある。そういう会議体をリメイクし、運営協議会を発展させる。トータルで会議体の数を増やさないことで教職員の負担を増やさない工夫をしてきた。</p> <p>決して、一部の負担を増やすのではなく、地域総力で、その地域らしく、お子さんの成長を支えていきたい。何かあれば抱え込まずに、開かれた環境で皆で協力して解決していく。</p> |
|--|--|

| | |
|--------|---|
| 日時 | 令和4年10月27日 |
| 場所 | 大阪府箕面市 箕面市役所 |
| 目的 | 箕面市立小・中学校エアコン設置の取り組み |
| 箕面市の概要 | <p>東西 7.1 キロメートル、南北 11.7 キロメートル</p> <p>面積 47.90 平方キロメートル</p> <p>世帯数 61,034 世帯</p> <p>人口 136,252 人 男性 65,165 人 女性 71,087 人</p> |
| 内容 | <p>災害時の避難所となる体育館の整備事業として、国の緊急対策補助金を活用するため単年度ですべての事業を行った。</p> <p>式が使われるようになった。</p> <p>平成 29 年の事業実施後、地震台風により体育館が避難所として使われ、特に台風災害時には、盛夏時の避難であったため、エアコンが利用できたことは、大きな成果であった。</p> <p>コスト削減のため、教室用のエアコンに送風機をつけることとした。</p> <p>以後、他自治体においてもこの方災害時の停電を考慮し、LP ガスを燃料とするエアコンを採用。</p> <p>停電時には、このガスを使って自家発電もする。</p> <p>災害時の輸送を考慮し、小さな車でも輸送可能な LP ガスボンベを 3 日分在庫で用意している。メンテナンスにかかる費用について、国の定めるメンテナンスについては、委託で予算を確保している。</p> |



| | | |
|--|--|--|
| | <p>それ以外は、その都度対応。 ランニングコストは年間20万円ほど。 WBGT 28度で学校の授業でも使用することとしている。それ以下の時の判断は学校がする。 部活動での使用は、部活先生の判断。</p> |  |
|--|--|--|

| | | |
|--------|---|--|
| 日時 | 令和4年10月28日 | |
| 場所 | 滋賀県守山市 守山市立図書館 | |
| 目的 | 図書館改築による地域の人づくり、まちづくりの促進について | |
| 守山市の概要 | <p>人口 82,936 人 世帯数 31,854 世帯 自治会加入率 90% 病院が充実しており良質な医療サービスの提供が可能。 市内に中高一貫校が2校ある。 中山道宿場町等の歴史と伝統も兼ね備えたまちであり 良好な自然環境に恵まれたのどかな田園都市。 JRで京都駅へ25分、大阪駅へ55分のアクセスである。</p> | |
| 内容 | <p>事業概要について 旧図書館は昭和53年竣工 雨漏り・段差など改善のため過去2回増築している。3回目の増築よりも改築が適しているという結論に至った。</p> <p>広報・周知について お年寄りへのアクセスのために、民生委員が図書の情報提供やサービスの案内をしている。広報は新聞折り込みのため、届かない人がいる。</p> |  |

課題について

コロナ禍で縮小してしまった行事活動の再開。

図書館サポート隊を組織している。本の修理、児童室に飾り付け（自分で作ったものを飾る）。中高生サポーターによる POP など、土日にクイズラリー（本から中高生がクイズを作り、館内に貼って誘導していく）。当初は参加者が大変多かったが、コロナで縮小。今後は、再拡大の予定（大人も参加）。自主的なものに。

未利用者への周知、PR はまだ課題が残る。

守山市内の地形的に、琵琶湖の方面からは距離があるので、そちらに図書館を建築中。

来館者数について

以前の図書館の土日の来館者数が、今の平日の通常。多いときは 7000 人くらい来る。想定していたよりも、来館者数は多かった。5 年の目標を 1 年でクリアした。駐車場が少ないため、土日祝日は、病院の駐車場を借りている。（協定締結）

守山市内において、トップを争う集客効果が出ている。営利目的にも有利であり、市民の活動にも寄与している。

集客したいときは図書館を使うようになってきている。中高生の来館、若い人の来館が増えた。広域協定しているため、守山市以外の来客も多く、県外からの見学も多い。観光ツアーも生まれ、映画などの撮影の依頼もある。商工観光的にも貢献できている。

質疑

来館者数の増の要因として、ハード面・ソフト面どう貢献しているのか。

限研吾建築ということで、その来館も多いが、それは 1 年目の効果であり、2 年目以降は、ソフト面の充実が必要と考えている。

蔵書数を充実させた。過去の 1.5 倍の予算となっている。

蔵書は 38 万冊。本選び、リクエストにこたえるサービスをしている。

資料提供、サポート隊との協同、図書館に来たくなる取り組み。

講演会・クイズラリー・など、常に取り組んでいくことで来館者を繋げる。

県立図書館との役割分担、連携が取れており、滋賀県が、市町村へのバックアップが充実しているので活用している。

要望があっても市が所有していない本が県立にあったら、市が借りて市民に貸し出せる。協力車を県が走らせて、そういった本を配達してくれる。郵送しなくてよい。

逆もできる。検索システムもある。他の図書館の検索ができる。県内図書館同士が協力し合っている。県立図書館の司書と県内図書館の司書が研修も共同協力している。

どこの図書館も中高生が来ない課題があるため、中高生サポーター制度を導入。個人申し込みだが、応募は30人以上あり、本好きの交流の場所になってきている。あらゆる中学・高校から参加してもらっている。過去にクイズラリーに参加した子供がサポーターとなってくれる例も増えてきている。徐々に人が集まる循環ができています。

集客の取組例

病院で行っていた健康講座を年に3回は図書館で開催している。図書館のほうが敷居が低く感じるため参加しやすい。連携事業でがん相談、医療相談も図書館だと参加しやすい。

企業に関するもの・キャリア支援の案内などの講座は、商工会議所が年に数回開催していた。現在はコロナ対策で、ネット配信を充実させ開催している。就職のための企業説明会なども開催し、地元企業の紹介にも利用している。

電子図書について

将来的には、ニーズはあるだろうと考えている。移動のできない人や歴史資料の保存など、メリットも認識している。一方、絵本や児童書は紙媒体であるべきで、ふれあい過ごす時間に価値がある。図書の提供を通して、出会いや繋がりきっかけを作り、今は力を入れている。



以上